

都道府県等名：愛媛県

目的	目標	目標値			事業実施主体ごとの達成度			交付金相当額 (円) (うち地域提案メニュー)	備考
		目標値	実績	達成度	事業実施主体	目標値	達成度		
II 伝染性疾病・病害虫の発生予防・まん延防止	家畜衛生の推進 (特別交付金)	CSF・ASFのまん延防止	CSF・ASFのまん延防止	達成	愛媛県	CSF・ASFのまん延防止	達成	4,275,000	
	重要病害虫の特別防除等 (特別交付金)	ツマジロクサヨトウのまん延防止	ツマジロクサヨトウのまん延防止	達成	周桑農業協同組合	ツマジロクサヨトウのまん延防止	達成	342,000	
				達成	東宇和農業協同組合	ツマジロクサヨトウのまん延防止	達成	14,000	
総計・総合達成度				総合達成度 達成 総合評価 適正				4,631,000	

留意事項

- 本様式は、都道府県等が記入するとともに、別紙用紙第2号-1及び別紙様式第2号-3を添付すること。
- 「目標値」、「事業実施主体ごとの達成度」及び「交付金相当額」のそれぞれの欄は、別紙様式第2号-1に基づきそれぞれ記入する。

国による評価の概要

総合達成度は「達成」であり、総合評価「適正」は妥当と判断する。なお、事業は適切に実施されたと評価する。

目標	家畜衛生の推進
事業実施期間	令和2年度
都道府県等名	愛媛県
【事業の実施方法】	
<p>国内におけるCSF（豚熱）発生以降、野生イノシシや人流を介した感染地域の拡大や家畜養豚へのまん延が危惧されており、本県においても、以下のとおり、野生イノシシの検査体制強化を図る必要がある。</p> <p>①現在のCSF・ASF（アフリカ豚熱）の検査体制では、豚と野生イノシシの病性鑑定が混在し同一検査機器で検査業務を行うことになるため、野生イノシシの検査材料が豚の検査材料を汚染するリスクが高い状況にあることから、野生イノシシの病性鑑定を適切に実施するためにも「病性鑑定における交差汚染防止対策」に取り組む必要がある。</p> <p>②CSF・ASFの本県への侵入リスクは依然として高く、渡航者等による本県へのCSF等の家畜伝染病の侵入を防止するため、県内空港（松山空港）において靴底消毒を実施し、水際対策を強化する必要がある。</p> <p>このため、「家畜衛生の推進」の目標値を達成するために、以下の取組を行った。</p> <p>(3) 家畜衛生対策による生産性向上の推進 家畜の伝染性疾病に対する防疫体制の確立</p> <p>(5) 家畜衛生対策の推進に係る関連機器の整備</p> <p>＜目標値の考え方＞ CSF・ASFのまん延防止 現状 CSF・ASFの発生件数 0件</p>	

目標値					
項目	現状	目標値	実績	達成度	評価
家畜の伝染性疾病のまん延防止	—	CSF・ASFのまん延防止	CSF・ASFのまん延防止	達成	適正
事業内容及び実績額					
事業内容	規格・規模等	所要額実績 (円)	左の交付金相当額 (円)	交付率 (%)	
家畜衛生対策による生産性向上の推進	発生予防の体制整備	960,960	480,000	49	
家畜衛生対策の推進に係る関連機器の整備	家畜衛生関連機器の整備	7,590,000	3,795,000	50	
計		8,550,960	4,275,000	49	
＜地区推進事業＞					
【事業の成果】					
1 事業実施内容					
(3) 家畜衛生対策による生産性向上の推進					
ア 家畜の伝染性疾病に対する防疫体制の確立					
a 発生予防の体制整備					
地域検討委員会の開催により、関係機関と国内の家畜伝染病の感染状況や知見を共有し、地域の連絡体制を確認することで、地域内における防疫体制を確立することができた。また、松山空港においては靴底消毒を実施し、本県における水際策を強化することで、渡航者等による本県へのCSFの家畜伝染病の侵入を防止することができた。					
(a) 疾病予防地域検討委員会の開催（中予家畜衛生推進協議会）					
開催時期：令和2年10月15日（木）					
開催場所：中予家畜保健衛生所研修室					
開催目的：地域における家畜防疫、家畜衛生情報の相互交換等を円滑にし、地域の実状に応じた家畜衛生対策を重点的に実施することにより地域畜産の発展に資する					
参集範囲：市町、農協他（参加者18名）					

<p>(d) 資材等の導入 委託契約：靴底消毒請負業務委託 委託先：株式会社 和光ビルサービス 委託内容：松山空港に設置している靴底消毒マット等の維持・管理 (消毒マットへの消毒薬の散布 2回/日×365日) 購入提供資材：消毒薬、散布器、消毒用マット、足ふき用マット</p> <p>(5) 家畜衛生対策の推進に係る関連機器の整備 CSF 検査対策及び家畜防疫の強化を図るため、本県の家畜疾病の検査及び診断の拠点である家畜病性鑑定所に、CSF 等に係る検査機器を整備することで、豚及び野生イノシシの検査体制を区分し、交差汚染を防止することが可能となった。</p> <p>購入機器 (凍結クリオスタット一式、ビーズ式細胞破碎装置一式、ゲル撮影装置一式、顕微鏡一式、遺伝子増幅装置一式)</p> <p>2 成果 CSF・ASF のまん延防止 (CSF・ASF の発生件数) ・実施後：0 件 ・達成度：達成</p>
--

<p>【都道府県等による評価の概要】</p> <p>野生イノシシや人流を介した感染地域の拡大や家畜養豚へのまん延を防止するため、水際対策の強化として、松山空港における靴底消毒を実施することで、県内への CSF 及び ASF の侵入を防止する効果があった。</p> <p>また、病性鑑定における野生イノシシ及び豚の交差汚染を防止するため、野生イノシシ専用の検査機器を整備することで、病性鑑定を適切に実施することが可能となった。</p> <p>以上の取組を実施した結果、本県において CSF・ASF の発生は認められず、CSF・ASF のまん延防止を達成することができた。</p> <p>なお、ASF はアジア周辺国において、CSF は国内で未だに発生が認められることから、引き続き、本県における CSF・ASF の侵入を防止するための水際対策を継続するとともに、豚及び野生イノシシの検査を適切に実施していきたい。</p> <p>【専門家の意見 (愛媛県獣医師会 会長 戒能豪)】</p> <ul style="list-style-type: none"> 関係者を参集しての会合を通じ、CSF や ASF の情報共有を図ることは、行政が推進する施策実行の上で重要と考える。 CSF や ASF の侵入に関与する渡航者の水際対策で、地元空港の検疫強化を優先し、業者委託による長期にわたる消毒対策の実施は、事業の実効性が高い。また、国内に拡散する CSF 侵入対策と連携する検査体制において、検査判定精度の向上のための機器整備を図ったことは、対策の実効確認の上で必要な措置と考える。 結果として、当該年に本病の発生がないことが事業の効果と考えている。
--

<p>第三者の主なコメント</p> <p>公益社団法人愛媛県獣医師会 会長 戒能 豪</p> <p>当面、CSF 侵入対策を優先する上で、本県の地勢を考慮し、県境の行政機関と情報共有等の連携を密に図るべく対応を検討していく必要があると思われる。</p>	<p>国による評価の概要</p> <p>目標値は達成されており、CSF・ASF のまん延防止に係る事業は適切に実施されたと評価する。</p> <p>今後も、CSF・ASF の侵入を防止するための水際対策や、飼養衛生管理基準に基づく飼養衛生管理指導等の継続的な実施により、農場の衛生レベル向上や維持に取り組みされることを期待する。</p>
---	--

目標 重要病害虫の特別防除等					
事業実施期間 令和2年度			都道府県等名 愛媛県		
事業の実施方法					
<p>ツマジロクサヨトウは、とうもろこし、ソルガム、さとうきびなど多くの作物に被害を与える長距離移動性の害虫であり、本虫による被害及びまん延を防止するためには、早期発見・防除が必要である。</p> <p>しかしながら、飼料用作物では、農薬による防除が行われないことが多いことから、生産者自身による防除を推進するため、県内の飼料用トウモロコシの防除に用いる農薬の購入費を支援することで、生産者による早期防除を推進し、本虫のまん延の防止を図った。</p>					
目標値					
項目	現状	目標値	実績	達成度	評価
重要病害虫の防除	—	ツマジロクサヨトウのまん延防止	ツマジロクサヨトウのまん延防止	達成	適正
事業内容及び実績額					
事業内容	規格・規模等	所要額実績(円)	左の交付金相当額(円)	交付率(%)	
(3)重要病害虫の防除 ②越境性病害虫	飼料用トウモロコシの防除に用いた農薬の購入費	785,652	356,000	49	
周桑農業協同組合		752,996	342,000	49	
東宇和農業協同組合		32,656	14,000	47	

事業の成果	
<p>事業実施主体：周桑農業協同組合 飼料用トウモロコシ 35.4ha の防除を行った。 【薬剤購入費（税抜額）】 パダン SG 水溶剤：2,856 円×212 本=605,472 円 フローバック DF：3,805 円×10 本=38,050 円 トアロー水和剤 CT：4,102 円×10 本=41,020 円 計：684,542 円</p> <p>事業実施主体：東宇和農業協同組合 飼料用トウモロコシ 4.9ha の防除を行った。 【薬剤購入費（税抜額）】 パダン SG 水溶剤：604 円×36 本=21,744 円 スミチオン乳剤：1,324 円×6 本=7,944 円 計：29,688 円</p> <p>県内の飼料用トウモロコシ（栽培面積 166ha）のうち、計 40.3ha の防除により、本虫のまん延防止を図った。 その他の地域では、当初の想定よりも本虫の発生・被害が少なく、防除の必要性が低かった。</p>	
都道府県等による評価の概要	
<p>地域における本虫の発生・被害の程度に応じて適切に薬剤防除が実施され、本虫のまん延防止を図ることができた。</p> <p>【病害虫に関する専門家による意見（愛媛大学農学部 小西和彦教授）】</p> <p>本種の東アジアにおける越冬や移動についての知見が集まり始めたところなので、これから数年は飛来時期や発生数などのモニタリングを綿密に行っていく必要がある。</p>	
第三者の主なコメント	国による評価の概要
<p>愛媛大学農学部 小西和彦教授</p> <p>発生・被害程度の調査に基づいて適切な薬剤防除が行われ、効率的にまん延が防止されている。今後も、発生の年次変動がどのようになるか予想できないので、発生・被害程度の調査を適切に行って、防除を行う必要がある。</p>	<p>目標値は達成されており、ツマジロクサヨトウのまん延防止対策である農薬散布による防除に関する事業は適切に実施されたと評価する。</p>